

農林水産委員会 県内所管事務調査の概要

【平成27年6月2日（火）】

◆調査箇所：東部振興局、果樹グループ

＜概要＞

東部振興局（管轄：別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町）及び農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループから、組織及び管内の概要や農地中間管理事業などの主要事業、ハウスみかんの垣根仕立て栽培など重点研究課題の概要・進捗状況等について説明を受けた後、果樹グループの研究用ハウスを見学した。



＜主な質疑等＞

- ・ 参入企業の営農状況について
- ・ 先進的な取り組みを行う集落営農法人について
- ・ 研究部門と普及部門の連携について

◆調査箇所：林業専用道大徳線（国東市国東町）

＜概要＞

森林整備や間伐材等の木材搬出を効果的に行うため、平成24年度に東国東郡森林組合が事業主体となり、一部箇所をコンクリート舗装するなど林業用車両も通行可能な林業専用道を整備した。（車道延長2,983m、全幅員3.5m）



＜主な質疑等＞

- ・ 地元負担、整備後の所有権について
- ・ 林道の設計基準について

◆調査箇所：国東こねぎトレーニングファーム（国東市国見町）

＜概要＞

国東こねぎトレーニングファームでは、こねぎ産地を担う人材の育成を目的に、国東市農業公社が運営主体となり座学や実践的な研修を実施している。

平成25年度に国・県の事業を活用し、研修用ハウス・機械や宿泊施設の整備を行った。

平成27年6月現在、いずれも県外出身の3名が旧高校教員宿舎を改装した宿泊施設に住みながら、栽培技術の習得等に汗を流している。



＜主な質疑等＞

- ・ 大分県で農業を志した経緯について
- ・ 研修終了後の支援について

【平成27年6月3日（水）】

◆調査箇所：株式会社大分サンヨーフーズ（杵築市狩宿）

<概要>

県の事業等を活用し農業参入した(株)大分サンヨーフーズは、15ヘクタールの広大な耕作放棄地を再生し平成21年度からユズ、梅の植栽を行い、平成25年度にそれぞれ初収穫を行った。ユズ、梅ともに親会社向けに出荷し、主にジュースの原料となっている。

近年は、大手飲料メーカーと連携し、青汁用の大麦若葉の生産にも取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・参入時に活用した事業について
- ・加工事業者との連携について

◆調査箇所：杵築いちご学校（杵築市片野ほか）

<概要>

作付け面積、出荷量ともに県内最大のいちご産地である杵築市では、平成26年10月からJAおおいた杵築事業部が地域の生産者と連携し、新規就農者を育成する「杵築いちご学校」の運営に取り組んでいる。

学校のハウスや調整施設などを県の事業を活用して整備し、平成27年6月現在、2組4名の研修生が就農を目指して研修に励んでいる。



<主な質疑等>

- ・就農学校の事業スキームについて
- ・研修終了後の支援について

◆調査箇所：花きグループ

<概要>

農林水産研究指導センター農業研究部花きグループから、組織の概要や研究・普及方針、ホオズキの需要に即した優良系統選抜と効率的な種苗生産技術の確立など重点研究課題の概要・進捗状況等について説明を受けた後、今年度から発電を開始する湯けむり発電施設を見学した。



<主な質疑等>

- ・県産ホオズキの生産・流通体制について
- ・温泉熱を利用したスマートハウスについて

【平成27年6月11日（木）】

◆調査箇所：佐伯広域森林組合宇目工場（佐伯市宇目）

<概要>

九州一の面積である佐伯市全域を管内とする佐伯広域森林組合は、市面積の78%、788万㎥もの広大な森林を背景に、佐伯林業の中心として活躍している。

これまで、国の交付金事業や県の基金事業を活用し、乾燥施設や選別機の整備を行い、平成27年度には待望の新事務所が完成した。

皆伐作業箇所が増加し苗木が不足している状況に対応するため、地元生産者と協力し「コンテナ苗」の生産にも取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・コンテナ苗の生産について
- ・乾燥材の品質について

◆調査箇所：大分県漁業協同組合鶴見支店水産鮮度保持施設（佐伯市鶴見）

<概要>

老朽化により漁船への氷積み込み作業に時間を要するなど漁業者の負担となっていたため、大分県漁協鶴見支店が国・県の事業を活用し、根氷防止システムを備える新しい製貯氷施設を建設した。

現在、佐伯湾内では養殖マグロの取り組みが進められており、それが本格稼働した場合には氷の需要が大幅に増加することも予想されている。



<主な質疑等>

- ・漁業者への氷の販売単価について
- ・マグロ養殖について

◆調査箇所：大分県漁業協同組合水産物加工処理施設（佐伯市米水津）

<概要>

大分県はブリ生産量全国3位であるが、ラウンド（1本もの）の販路開拓が遅れ、他県に主要な出荷先を押さえられていた。

その状況を打破するため、平成22年度に当施設を整備し、量販店・飲食店が加工しやすいフィレ（1/2カット）・ロイン（1/4カット）の生産を行っている。

ブリフィレ生産量は順調に推移し、平成26年度は計画の2倍の38万尾以上となったため、今年度、増設を行う予定である。



<主な質疑等>

- ・ブリフィレの出荷先について
- ・民間加工場の処理状況について
- ・加工残渣について

◆調査箇所：南部振興局、水産研究部

<概要>

南部振興局（管轄：佐伯市）及び農林水産研究指導センター水産研究部から、組織及び管内の概要や養殖漁業の振興・流通対策などの主要事業、赤潮早期予測対策などの重点研究課題の概要・進捗状況等について説明を受けた。



<主な質疑等>

- ・ 林業における佐伯型循環施業について
- ・ 農地中間管理事業の進捗状況について
- ・ 参入企業への指導について

【平成27年6月12日（金）】

◆調査箇所：豊肥振興局、農林水産研究指導センター、農業大学校、豊後大野家畜保健衛生所、県中央空港管理事務所

<概要>

豊肥振興局（管轄：竹田市、豊後大野市）及び農林水産研究指導センター、農業大学校などから、組織及び管内の概要や鳥獣被害対策重点集落活動の推進などの主要事業、「甘太くん」の規格外品を給与した銘柄豚の作出技術の開発などの重点研究課題の概要・進捗状況等について説明を受けた。



<主な質疑等>

- ・ センターと農業大学校の連携について
- ・ 農業における人材育成について
- ・ 豚凍結精液の製造について

◆調査箇所：新規就農者技術習得施設インキュベーションファーム（豊後大野市大野町）

<概要>

西日本一の夏秋ピーマン産地である大分県の中でも、主要な生産地である豊後大野市のピーマン後継者を育成するため、市が設置し豊後大野市農林業振興公社が指定管理者として運営を行っている。

J Aピーマン部会、豊後大野市農林業振興公社、県等で構成される「新規就農者技術習得支援班」が、指導研修カリキュラムの作成や就農計画の策定指導などにあたっている。



<主な質疑等>

- ・ 研修生へのサポート体制について
- ・ 就農後の所得目標について

◆調査箇所：畜産研究部、畜産研修センター

<概要>

農林水産研究指導センター畜産研究部から、組織の概要や研究・普及方針、第11回全国和牛能力共進会（宮城大会）への取り組みなど重点研究課題の概要・進捗状況等について説明を受けた後、畜産研究部の牛舎などを見学した。



<主な質疑等>

- ・優秀な種雄牛の育成について
- ・次回の全国和牛共進会に向けた取り組みについて
- ・畜産研究部の研究・指導方針について

◆調査箇所：林業専用道塔立線（竹田市久住町）

<概要>

森林整備や間伐材等の木材搬出を効果的に行うため、平成25年度から平成26年度に竹田市森林組合が事業主体となり、林業用車両も通行可能な林業専用道を整備した。（車道延長941m、全幅員3.5m）



<主な質疑等>

- ・林道開設後の伐採計画について
- ・造林予算の確保について

【平成27年6月15日（月）】

◆調査箇所：中部振興局、大分家畜保健衛生所

<概要>

中部振興局（管轄：大分市、臼杵市、津久見市、由布市）及び大分家畜保健衛生所から、組織及び管内の概要や地域特産魚の販路拡大とブランド化、発生時に備えた防疫及び支援体制の確立とまん延防止対策の強化などの主要事業の概要・進捗状況等について説明を受けた。



<主な質疑等>

- ・農業水利施設保全合理化事業について
- ・鳥獣被害と「戦う集落」の指定について
- ・複合経営について

◆調査箇所：伊万里木材市場株式会社大分営業所（由布市庄内町）

<概要>

本社を佐賀県に置く九州伊万里木材(株)の流通拠点として平成19年に開所した同営業所では、平成25年度から26年度にかけて県の基金事業を活用し、貯木場の新設と3Dスキャナーを備えた最新鋭の選木機の整備を行った。

同社は材の生産・販売のみならず、森林資源を将来につなぐため、森林組合等と協力し、森林整備事業にも積極的に取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・選木機の処理能力について
- ・木質チップを利用したバイオマス発電について

◆調査箇所：株式会社村上農園（大分市宮河内）

<概要>

県内を代表する「にら団地」が形成されている当地区の中でも、(株)村上農園は機械化による省力化を積極的に進め、県内最大規模の3.5ヘクタールのにら栽培面積となっている。

代表者は、地域のにら生産団体の代表をつとめ、「大分にら」のリーダーとして生産・流通対策（機械移植の導入、大分にらの銘柄統一、にら新包装「ベジプレスパック」の導入等）に取り組み、平成26年に大分市で開催された第63回全国農業コンクール名誉賞を受賞した。



<主な質疑等>

- ・ニラの生産・調整体制について
- ・今後の規模拡大について

【平成27年6月16日（火）】

◆調査箇所：農業用河川工作物応急対策事業 馬代工区（臼杵市前田）

<概要>

洪水や地震などによる災害発生を未然に防止するため、臼杵川にある河川工作物・馬代（ばだい）工区頭首工（延長：76.5m、堰高：2.15m、3門）の固定堰を自動転倒堰に改修する工事を平成27年度まで実施している。



<主な質疑等>

- ・事業化された経緯について
- ・受益面積、地元負担について

◆調査箇所：臼杵市アグリ起業学校（臼杵市野津町）

<概要>

夏秋ピーマンの主要産地である臼杵市野津町で、臼杵市が事業主体となり、JAおおいた野津事業部野津町ピーマン生産部会等と連携し、平成26年1月にピーマン学校として開校した。

国・県の事業を活用し、旧都松幼稚園を改修した研修施設や研修用ハウスを整備し、平成27年6月現在、3組4名の研修生が平成28年3月の就農を目指して研修に励んでいる。



<主な質疑等>

- ・研修生の農地・住居の確保について

◆調査箇所：九州丸和林業株式会社臼杵営業所（臼杵市野津町）

<概要>

本社を宮崎県に置く九州丸和林業㈱は、これまで主に千歳営業所で県外工場向けの製紙用チップ製造を行ってきたが、平成26年度に県の基金事業を活用し、木質バイオマス発電所向けのチップ製造施設を整備した。

チップの主な原料は未利用材となるため、これまで伐採後そのまま放置されてきた木材が有効に活用されるなど、森林整備のさらなる促進が期待される。



<主な質疑等>

- ・チップの販売先について
- ・木材の伐採から販売までの流れについて

◆調査箇所：広域農道大南野津2期地区（大分市中戸次）

<概要>

当該地区は、県道坂ノ市中戸次線から国道502号間の広域農道整備事業（大南野津地区、全長11,273m）の2期地区として、平成21年度に採択され平成29年度に完成予定である。

当地区を除いたほかの地区はすでに完成しており、当地区の完成が急がれるところである。



<主な質疑等>

- ・事業完了時期について
- ・地下水の調査について

【平成27年6月23日（火）】

◆調査箇所：株式会社安心院オーガニックファーム（宇佐市安心院町）

＜概要＞

平成24年度に県外企業（農産物卸売業・農業生産法人）2社の共同出資により設立され、県の補助事業等を活用し平成26年度から本格的にベビーリーフの生産を行っている。

レストランを中心とした旺盛な需要に応え徐々に増産しており、将来的には大幅な規模拡大を計画している。



＜主な質疑等＞

- ・今後の規模拡大について
- ・農林水産省「農業女子プロジェクト」について

◆調査箇所：北部振興局、水田農業グループ、浅海・内水面グループ、宇佐家畜保健衛生所

＜概要＞

北部振興局（管轄：中津市、豊後高田市、宇佐市）及び農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループなどから、組織及び管内の概要や白ねぎ・いちご等県戦略品目の産地づくりの推進など主要事業、水稲乾田直播き栽培を基軸とした土地利用型作物の超低コスト化栽培法の開発など重点研究課題の概要・進捗状況等について説明を受けた後、水田農業グループの圃場を見学した。



＜主な質疑等＞

- ・乾田直播の試験研究について
- ・豊前海の二枚貝の状況について
- ・飼料用米生産者と畜産農家のマッチングについて

◆調査箇所：大分県漁協中津支店 カキ養殖業「中津ひがた美人」（中津市小祝）

＜概要＞

「中津ひがた美人」は、大分県漁協中津支店が豊かな中津干潟（小祝漁港沖）で養殖に取り組んでいるブランドカキである。

通常のカキとは異なり、ひと粒ひと粒バラバラの状態のシングルシードオイスターとして、干潟の干満の差を利用するオーストラリア方式により養殖されている。



＜主な質疑等＞

- ・カキの流通方法、出荷時期について
- ・豊前海におけるナルトビエイ対策について

【平成27年6月24日（水）】

◆調査箇所：JAおおいた日田梨部会 大苗育苗施設（日田市小野）

＜概要＞

梨の産地である日田市では、樹の老木化が進み、将来的に出荷量の減少や品質の低下が危惧されている。

そこで、JAおおいた日田梨部会において、県農林水産研究指導センター果樹グループが開発した、3～5年（通常は10～12年）で成木にできる技術「流線型仕立て」の大苗育苗施設を整備し、改植の取り組みを推進している。



＜主な質疑等＞

- ・流線型仕立てによる改植状況について
- ・育成している品種について

◆調査箇所：あさひ営農組合（日田市朝日町）

＜概要＞

あさひ営農組合は、基盤整備事業を契機として、日田市中心部からほど近い日田市朝日町、小迫町、君迫町、二串町の農地を担うため設立された集落営農組織である。

現在は、WCS（飼料用稲）15.8ヘクタールが経営の中心で、草刈り作業省力化のため、ヒメイワダレソウによる畦畔緑化を行っている。

将来にわたって地域の担い手となることができるよう、現在、法人化を目指している。



＜主な質疑等＞

- ・法人化に向けた課題について
- ・圃場整備を行った経緯について

◆調査箇所：西部振興局、林業研究部、玖珠家畜保健衛生所

＜概要＞

西部振興局（管轄：日田市、九重町、玖珠町）及び農林水産研究指導センター林業研究部及び玖珠家畜保健衛生所から、組織及び管内の概要や木材流通促進と効率的な加工体制の整備などの主要事業、スギ推奨品種挿し木苗の増産に関する研究など重点研究課題の概要・進捗状況等について説明を受けた。



＜主な質疑等＞

- ・梨の鳥獣被害について
- ・公共建築における県産木材の活用について
- ・企業参入の状況について

◆調査箇所：新型捕獲装置「ドロップネット」（玖珠町日出生）

<概要>

「ドロップネット」は、深刻化するシカによる獣害対策のために導入した遠隔操作による新型捕獲装置。パソコンやスマートフォンでリアルタイムに現地の映像を見ながら、多くのシカを捕獲できるタイミングで落下させる。

県が3セット購入し設置したうちの1つであるこのドロップネットは、隠れ場が多い日出生台演習場に隣接する農地に設置されている。



<主な質疑等>

- ・ 駆除を行う体制・経費について